

群馬県 御中

# 分析レポート

災害に強い群馬県をつくっていくためにはどんな取り組みが必要だと思いますか？

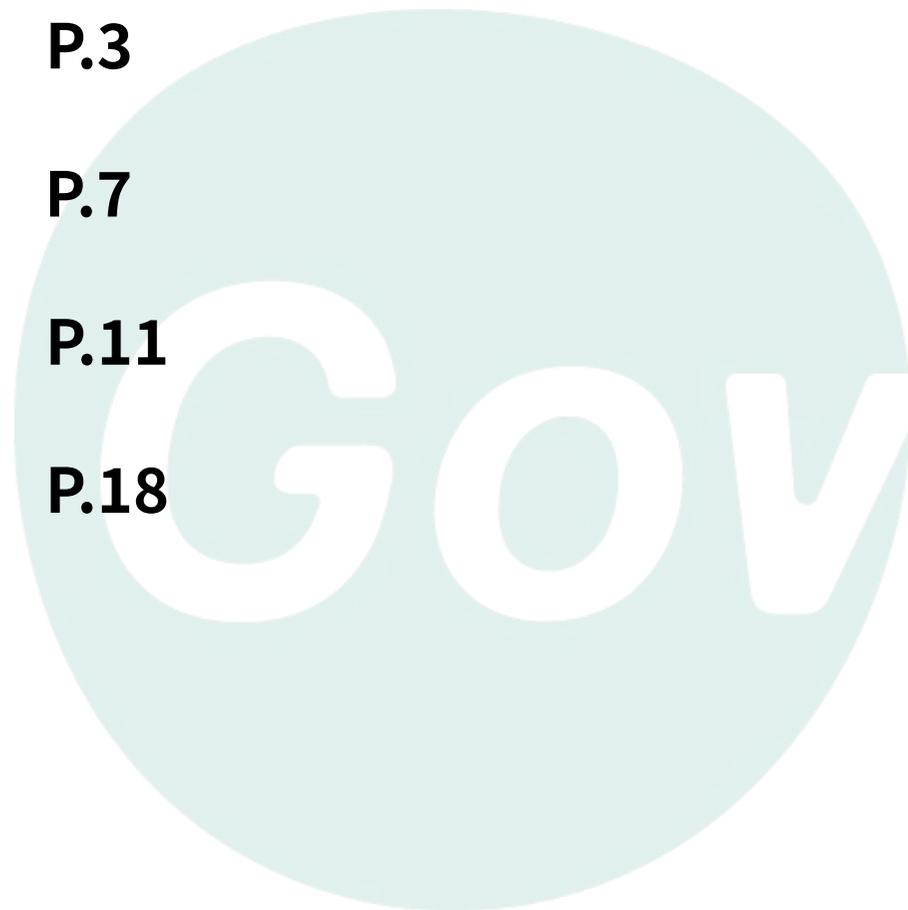
**PoliPoli** Gov

2024年10月10日



# 目次

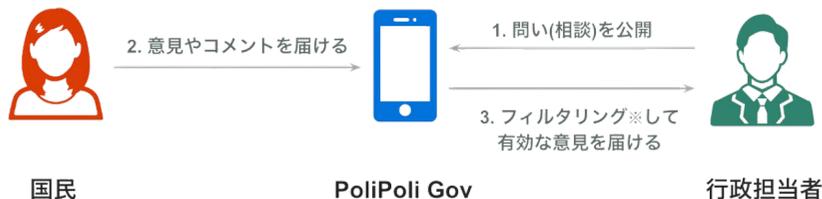
01.意見募集の概要・実施結果	P.3
02.カテゴリごとの分析	P.7
03.コメントピックアップ	P.11
04.コメント概要と全体考察	P.18



# 意見募集の概要・実施結果

- **実施内容**：国土強靱化に関する意見募集を行った。
- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- **意見募集のテーマ**
  - 災害に強い群馬県をつくっていくためにはどんな取り組みが必要だと思いますか？
- **調査期間**：2024/08/01～2024/09/01（31日間）
- **調査地域**：全国オンライン
- **ページ閲覧数**：7,280PV
- **総コメントユーザー数**：154人（\*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- **総コメント投稿数**：162件（\*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- **回答者の属性（必須回答）**：
  - **あなたと群馬県の関わり**：群馬に居住・通勤・通学している,過去、群馬に居住・通勤/通学した,観光などで群馬を訪れた,群馬を訪れたことはない
  - **あなたの年代**：10代以下,20代,30代,40代,50代,60代,70代以上

## 意見募集の仕組み

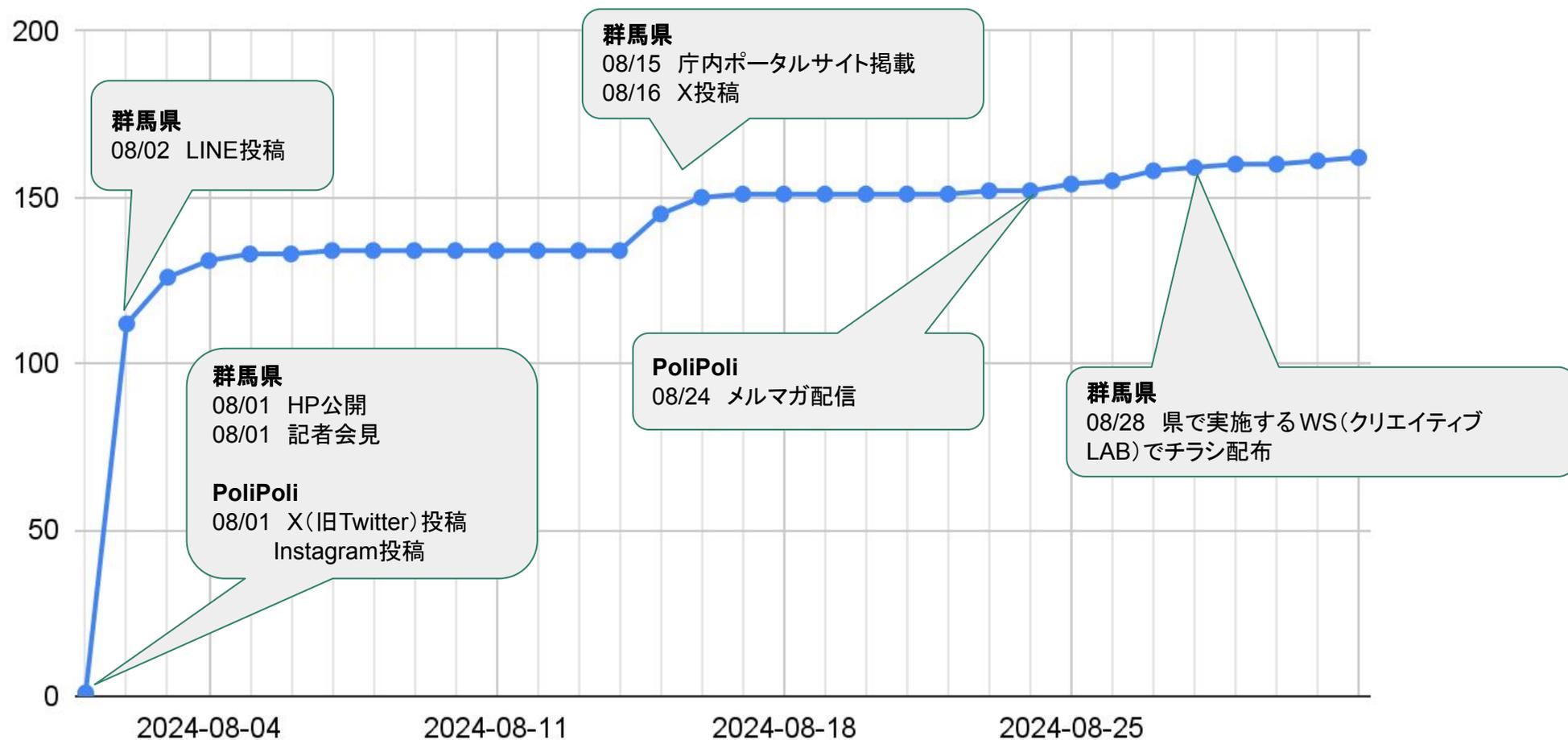


※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



# 意見募集の概要・実施結果 | コメント数の日次推移

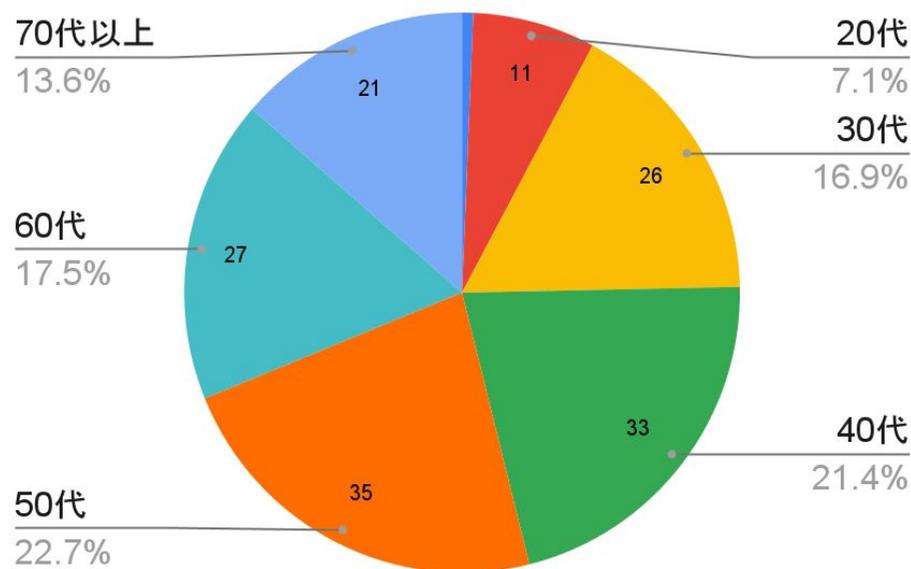
## コメント数推移(日次)



## 意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

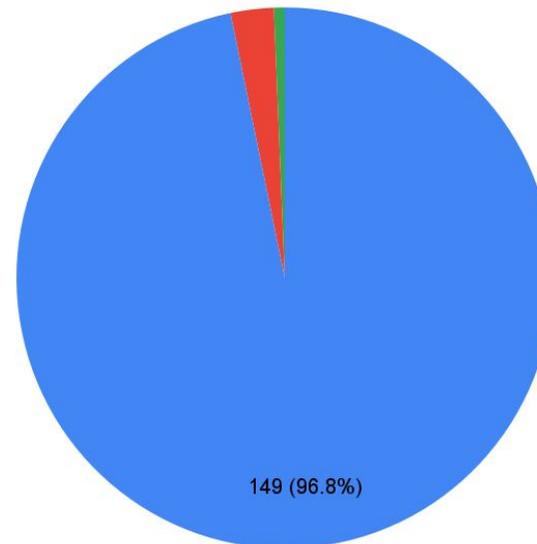
- 年代については、グラフの通りである。
- あなたと群馬県の関わりについては、群馬に居住・通勤・通学しているユーザーが149名（96.8%）、その他が5名（3.2%）であった。

あなたの年代(UU 154人)



あなたと群馬県の関わり(UU 154人)

- 群馬に居住・通勤・通学している
- 過去、群馬に居住・通勤/通学した
- 群馬を訪れたことはない



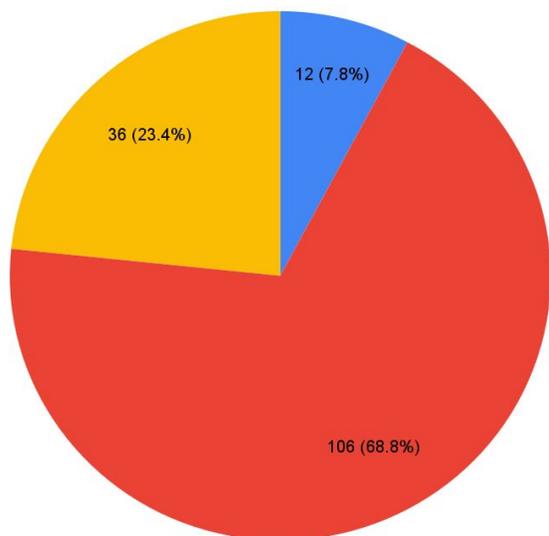
※UU=ユニークユーザー数。複数コメントした場合でも同一ユーザーとしてカウント

## 意見募集の概要・実施結果 | 選択的設問

- 選択的設問①「あなたの自然災害への準備状況を教えてください。」
  - 「ある程度の準備はしている」と回答したユーザーが68.8%で最多となり、「準備は完了している」と回答したユーザーと合わせると76.6%ものユーザーが何かしらの準備をしていることがわかった。
- 選択的設問②「自然災害への対策の考え方として「国土強靱化」というものがあります。国土強靱化という言葉を知っていますか。」
  - 国土強靱化という言葉を知っていないというユーザーが最多で42.9%であった。意味の理解を問わず、一度でも国土強靱化という言葉を知っているユーザーは半数以上の57.1%であった。

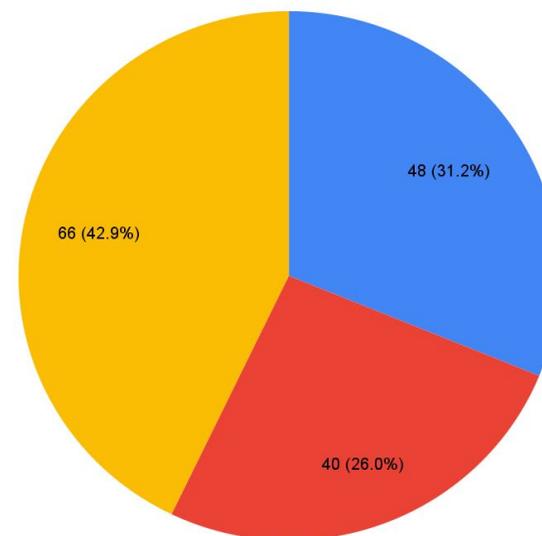
自然災害への準備状況(UU 154人)

● 準備は完了している ● ある程度の準備はしている  
● 準備を検討している 準備の予定はない(何を準備したら良いかわからない)



国土強靱化という言葉を知っているか(UU 154人)

● 知っており、意味も分かる ● 知ってはいるが、意味は分からない  
● 知っていない

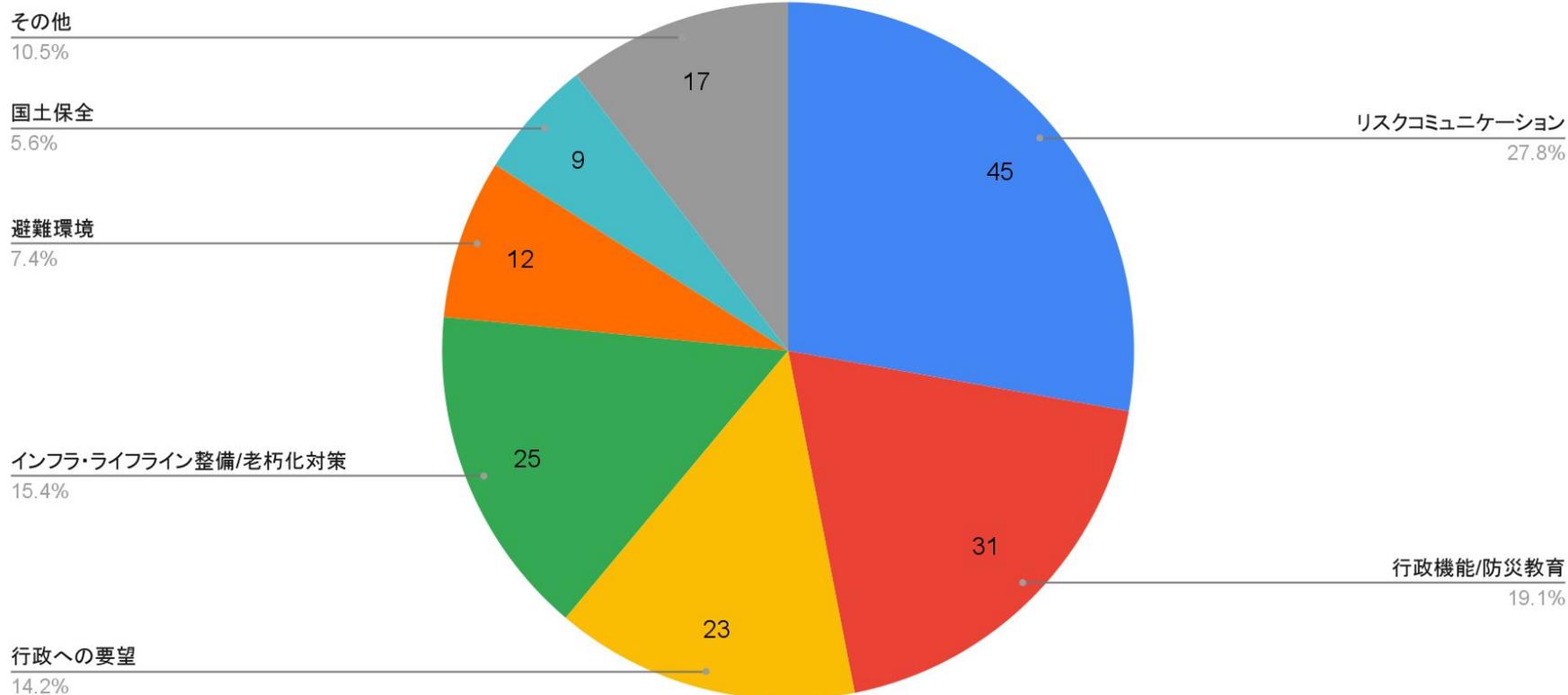


※UU=ユニークユーザー数。複数コメントした場合でも同一ユーザーとしてカウント

## カテゴリごとの分析 | 国土強靱化

- コメントカテゴライズを行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。
  - 「リスクコミュニケーション」に関するコメントが45件（27.8%）となり最多である。
  - 「国土保全」に関するコメントは9件（5.6%）で最小となっている。

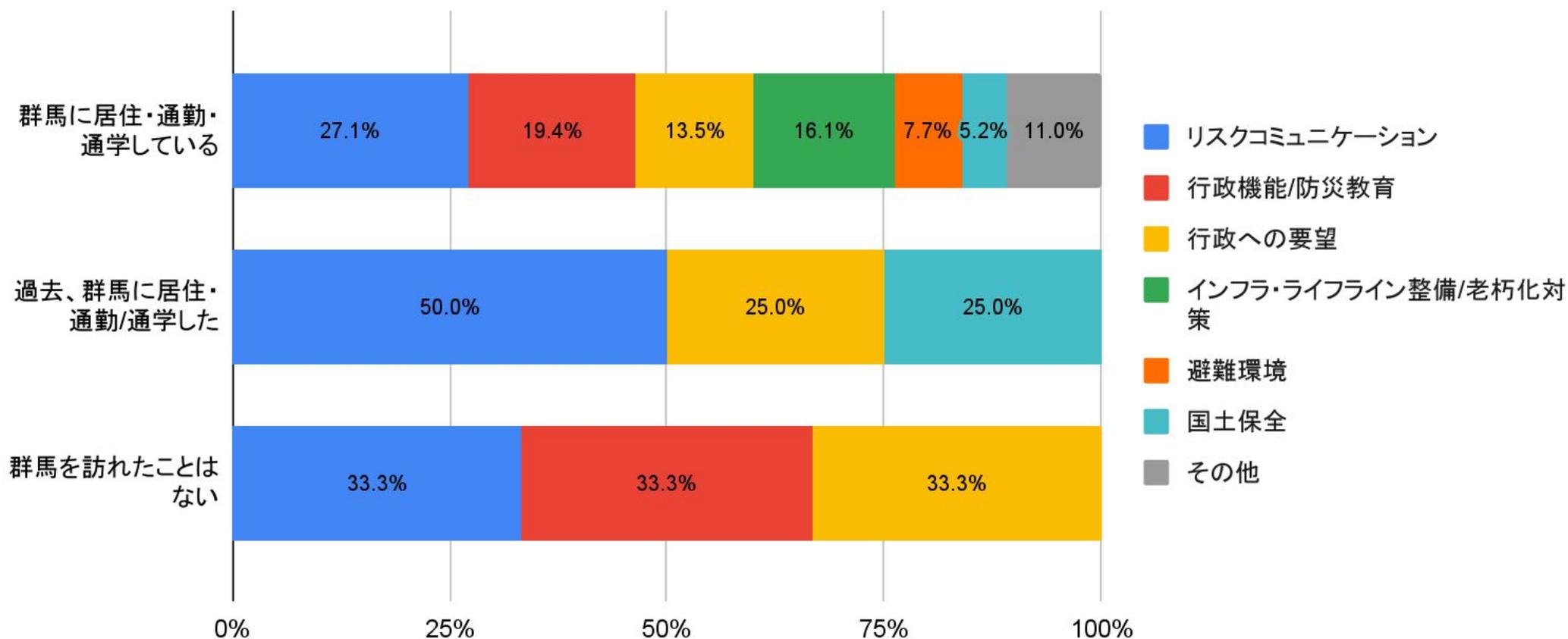
コメントカテゴリ (n=162)



## カテゴリごとの分析 | 群馬県の関わり×カテゴリのクロス分析

- 群馬県の関わりについて、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

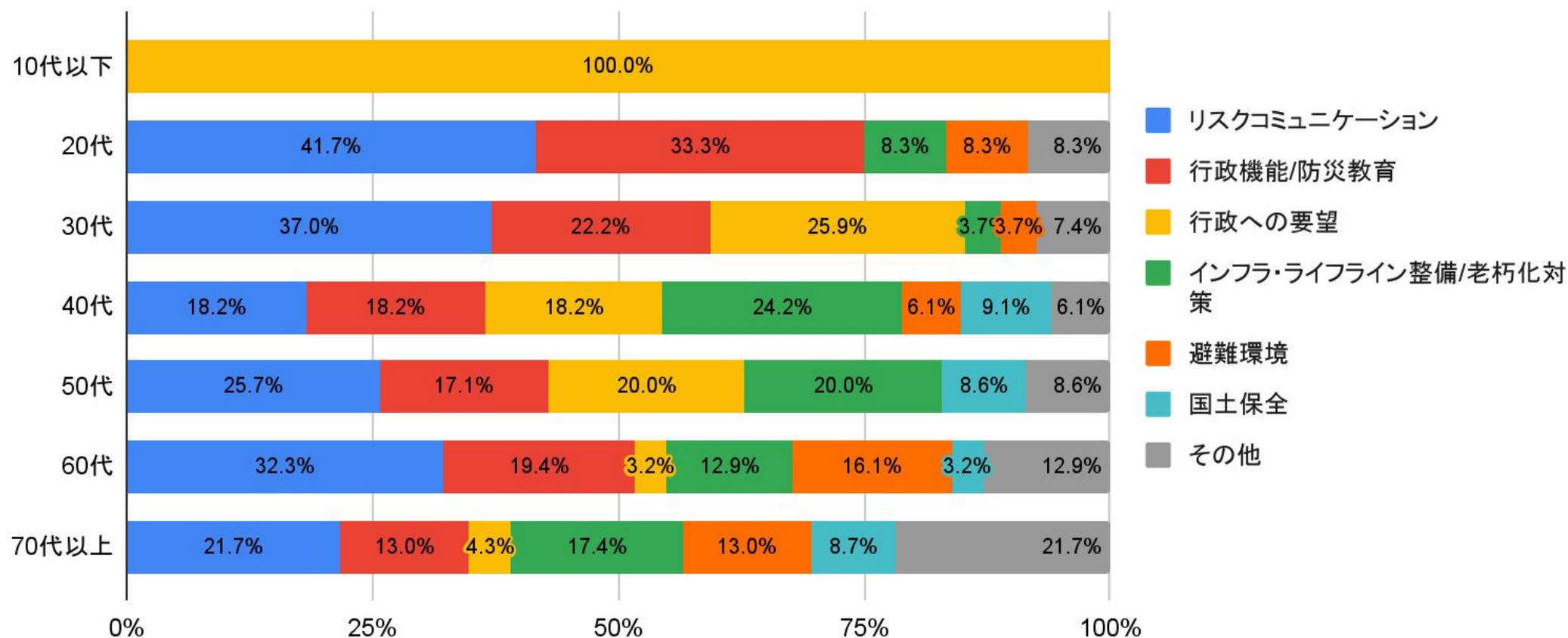
### 群馬県との関わり×カテゴリ(n=162)



## カテゴリごとの分析 | 年代×カテゴリのクロス分析

- 年代について、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

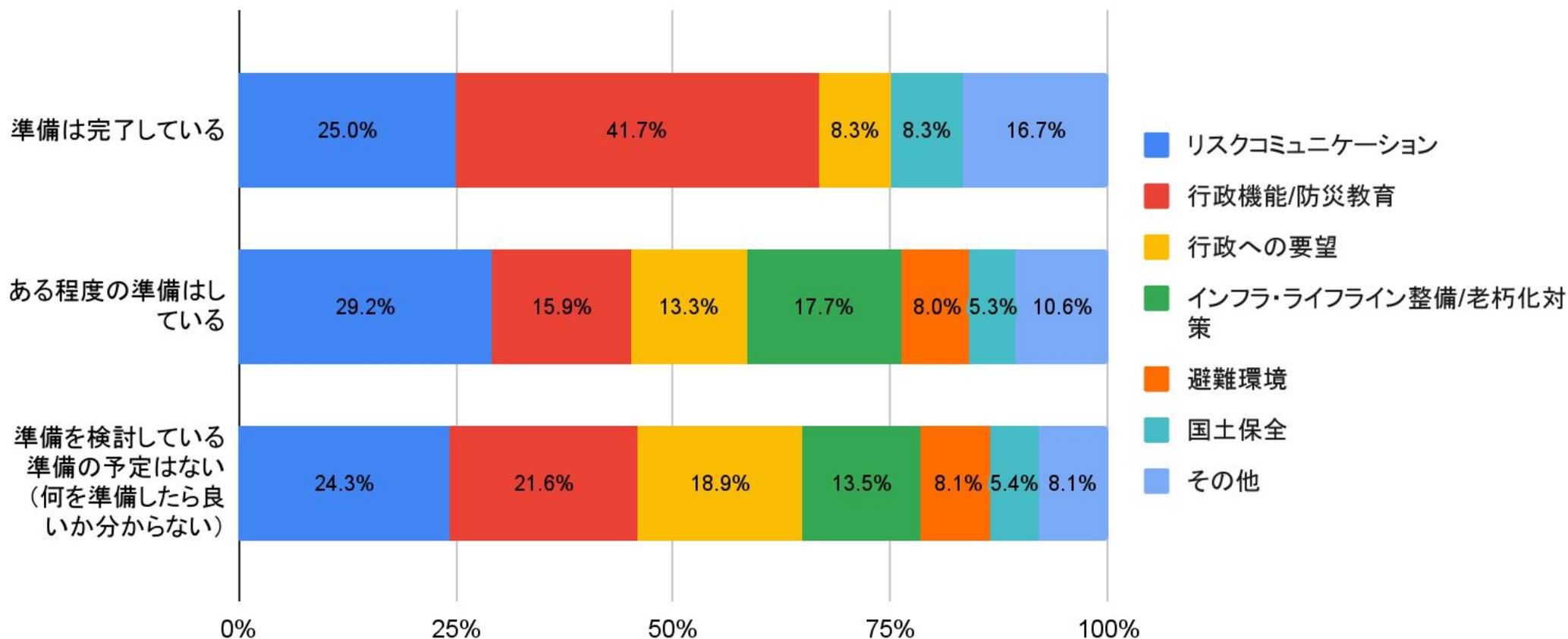
年代×カテゴリ(n=162)



## カテゴリごとの分析 | 選択的設問①×カテゴリ

- 選択的設問①「あなたの自然災害への準備状況を教えてください」について、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

### 選択的設問①×カテゴリ (n=162)



## テーマ別 | リスクコミュニケーション

### 代表的なコメント

- 地域で人や事業所や公共機関や、いろいろなネットワークを繋げていきたいと思っています。どのようなアプローチができるのか、情報交換の場や専門家からの学びの場が欲しいなあと思います。（県内/60代）
- ある程度の備蓄はしています。自分の家の事もそうですが、以前災害救援のために家での備蓄品を物資として送りました。緊急の場合誰もが助けになると良いですね。10年前より災害が増えています、安心はどこにもありません。備品は徐々に増えつつ、年を重ねるごとに重い物は持てなくなりますので工夫も必要ですね。ですから国、県、市でも十分な備蓄品は揃えて欲しいですね。その時になって困らないように！（県内/70代以上）
- 災害があった時の備えの意識を県民に広く知らせるようにしてほしい。（県内/60代）
- 的確で確実な情報収集ができるようテレビやラジオ、インターネット、SNSなどを活用して配慮願いたい。避難場所についても、いざ行ってみると開いていない。職員がいない。情報が更新されておらず場所が違うなどもある。避難物資もホームセンターとかで買うととても高い。非常食とか人数分準備したいけど、手が出ない。乳幼児がいるとなおさら。クーポンなどの助成があると嬉しい。また最低限の準備物などわかりやすい提示も必要かと思う。（県内/30代）
- 自宅での準備避難場所方法はわかるが、自宅以外の県内でも災害情報が必要になった時は不安になる。災害時スマートフォンのバッテリーも貴重です。それ以外の情報取得方法の検討が必要です。（県内/60代）

## テーマ別 | 行政機能/防災教育

### 代表的なコメント

- 災害に強い群馬県をつくるには、県民一人一人が防災・減災を意識し、災害対応できるよう育成していくことが必要と考えます。行政職員の人数も限られており、従来のような「行政まかせ」では災害時、対応しきれません。防災・減災は県民一人一人が「主役」（主体的に動く）となれるよう、防災教育や啓発（今までも取り組んでいただいておりますが、今まで以上に一步踏み込んで）に、力を入れていただければと思います。小さい頃からの防災教育（親世代も巻きこむ。祖父母世代まで巻き込めるとなおよい）、各イベントや行事に防災・減災を絡めて（こじつける）、知らないうちに意識づけしていく方法があるかと思います。（県内/30代）
- 災害発生時はまず自助である意識を植え付けるための防災教育を行う。災害が来ることが分かっているのに準備していない人があまりにも多すぎる。災害時も行政が率先して支援・対処してくれるという認識の甘さを打ち砕く説明が必要だと思う。（県内/30代）
- 自治体ごとの訓練がないことに疑問を感じています。本当に高齢者や障がい者を救助するには行政区単位の災害訓練は必須です。群馬県と言えども、行政区単位で災害の特性が（利根川が近く氾濫の可能性や山岳部で土砂崩れの可能性など）異なるため、行政区単位の災害訓練は必須です。（県内/60代、一部要約）
- おそらく近いうちに訪れる南海（注：南海トラフ地震）や首都直下（注：首都直下地震）での被災者を大量に受け入れることとなるため大掛かりな避難施設の構想をすでに作っておくことや、首都機能の一部を賄えるような施設やデータセンターの誘致を積極的にお願したい。群馬での災害予定は活火山の噴火や河川の氾濫が最も一般的なもので利根川の治水等を中心にハザードマップをみると明らかに水没地域が出てくるのでそれらの解消。あまり現実的ではないが地下放水路など埼玉に倣うような形でも良いと思う。（県内/40代）

## テーマ別 | 行政への要望

### 代表的なコメント

- 群馬では津波より土砂崩れや河川氾濫の対策が大事だと思います。個人でできる家の外と中の対策としては下記があります。
  - 家の外:ハザードマップにあらわれない、老朽化した橋や崩れそうなブロック塀、倒壊しそうな空き家などを各人が通報して共有できる。工事や条例改正、財務支援などは行政に期待します。
  - 家の中:建て付けの悪くなった家具や溢れたモノが災害時のボトルネックになります。断捨離の支援を推進してほしいです。（県内/30代）
- もう、日本中いっしょで大変な災害がおきてもおかしくない状況にあると思います。よって、これからは、県民へのお知らせや企業誘致などの際に「地震等の災害が少ない（起こる可能性が低い）群馬県」とアピールすることはやめた方がいいです。それよりも、①災害への備えができていないこと。（プライバシーに配慮した避難所や食料備蓄）②災害が起きた場合には、速やかな復旧体制を整えていること。などをアピールできるような準備をすすめていくと良いのではないのでしょうか。（県内/40代）
- 群馬県は災害に強い県として最近注目を集めている。今のうちに電力、水、食、居住など首都圏の避難所としての地位を確立するべく備えを万全にして全国にアピールするべきだと思う。（県内/40代）
- 準備としての範囲も個人差がかなりあるかと思います。携帯トイレ、1週間位の水や食料などの確保など、夏や冬でも変わるかと思います。見やすいフォーマットなど災害セットとして駅や市役所、出張所道の駅など身近な場所で展示や販売などがあると、高齢の方や若い方も意識するかと思います。（県内/50代、一部要約）

## テーマ別 | インフラ・ライフライン整備/老朽化対策

### 代表的なコメント

- 利根川や他の河川の土手等の改修・整備。避難所の収容可能人数やペットが連れていけるかなど知りたい（県内/40代）
- 災害に強い道路の整備をお願いしたいです。信号間隔が狭い、右折レーンがないなどで普段から渋滞のひどい幹線道路がありますが、災害時にはよりひどい渋滞となり緊急車両が素早く移動できない状況が生じるなど問題が出てくると思います。交通のボトルネック解消をぜひお願いしたいです。また、山間部のバイパス道路の整備も引き続きお願いしたいです。災害リスクの高い部分を避けて通行できれば寸断を回避できる可能性が高くなるので。（県内/20代）
- 群馬県は比較的災害の少ないところだと思います。地元の福岡では毎年のように台風、ゲリラ豪雨、積雪等々備えが必要。もしくは被害が出てしまう。しかし、群馬県は災害が少ないのが事実だと思います。ただ、集中的に雨が少しでも降ると排水溝が機能出来ていないのか、排水溝が小さすぎることでいろんなところで冠水しています。どうにかならないでしょうか。たった10分ほどの豪雨で冠水は、運転するほうからしても大変です。あと民家への雨水被害など早急な対策をしていただきたい。（県内/40代、一部要約）
- 大雨時に冠水がないよう、排水設備の管理が大事だと思います。（県内/40代）

## テーマ別 | 避難環境

### 代表的なコメント

- 近年の日本では地震、水害などさまざまな災害にみまわれています。被災に遭われた方々は自治体を用意をした、避難所に行きます。テレビ等でその様子を拝見すると、硬い床の上で休んでいる人々がつらい思いをしているところが目に入ります。最近では段ボールで作られたベッドを使用しているところがあります。それは素敵な事だと思います。私は以前から私自身が使っているエアベッドはどうなのかなとテレビを観ながら思います。数分も有ればベッドが完成し、硬さも個人個人の好みに調整を簡単にできます。保管場所もたいしたスペースを取ることもなく、例え停電になっても電気自動車から給電をすることができます。エアベッドの価格もさほど高価ではないので、被災者の健康を考えると是非とも日頃から準備をしていただければと思います。（県内/70代以上、一部要約）
- 災害への対策は国、県、市でしっかりしていただきたい。個人では限界があります。水害対策として川の氾濫を防ぐ工夫。氾濫した場合の流す場所。地震で生活が機能しなくなった時の、まずトイレの確保、ペットとの同行避難所、プライバシーが守られる避難所。早急に用意して欲しい（県内/60代）

### 代表的なコメント

- まず、現地を知る。現地を巡回・調査をして、水の流れを知り弱点箇所を見つける。（県内/70代以上）
- 洪水被害を少しでも軽くする為には敷地の盛土等建築基準法や開発行為の見直しが必要だと思います（県内/60代）
- 川の整備をしっかりとしてほしい。川の中に背の高い雑草が生えていて大量の水が流れた時に妨げになり洪水を起こしかねないと思う。一度、県の方に申しあげたが順番があってなかなか手が回らないようなことを言われたが災害は待ったなしだと思います。川は県の管轄という話なのでしっかりと整備していただきたい。（県内/40代）

## テーマ別 | その他

---

### 代表的なコメント

- いざと言う時の備えは大事だと思うが群馬は比較的被害が少ない地域なので結局後回しになっているのが現状（県内/50代）
- 対策の必要性を最近強く感じる（県内/60代）
- 自然災害は現状の自然環境下ではいつ起こってもおかしくない。しかし国、県や自治体などの対策は後手になっていないだろうか？（県内/60代）

## コメント概要<カテゴリごとの回答傾向>

- **リスクコミュニケーション**

災害リスクの周知と具体的な備蓄ガイドが必要。パニック買いを防ぐためには、家族構成に応じた備蓄例の提案や防災教育を推進し、地域でのコミュニケーションを意識する。

- **行政機能/防災教育**

主体的な防災教育や、備蓄や支援体制の強化を求める。また、民間との連携や高齢者向けの対策も不可欠。避難訓練を通じて県民の意識を高め、地域ごとの特性に応じた対策が必要。

- **行政への要望**

土砂崩れや河川氾濫対策が重要。地域の安全確保や備蓄体制、建築基準の強化を求める。また、防災意識を高めるための教育や公共施設等の設備の充実。気候変動に対応した措置も急務。

- **インフラ・ライフライン整備/老朽化対策**

道路は狭く、災害時にボトルネックとなる。幅を広げて救急車両を通行しやすく、市民が避難しやすくすべき。樹木の撤去も検討が必要。古い建物や排水問題が不安。ハザードマップの普及や、防災情報をわかりやすく提供する必要がある。

- **避難環境**

車での被災や避難所のプライバシー確保について、事前の対策や地域での避難訓練の必要性を提案。エアベッドや簡易トイレの導入、プライバシー保護を強化する避難所の整備を求める。

- **国土保全**

群馬県は山が多く、土砂災害が懸念される。現地調査や植林、川の整備が重要。防災訓練や情報発信を通じ、地域全体で備えを強化し、災害に対する心構えを育てるべき。

## コメント概要<年代ごとの回答傾向>

- **10代以下**
  - 災害についてのイベントが必要。
- **20代**
  - 群馬県は災害意識が低いため、具体的な防災教育が必要。教育や訓練を充実させる中で、地域のつながりを強化したい。
- **30代**
  - 防災強化には、個々の意識向上と教育が重要。地域での情報共有や避難所の改善には、行政の支援が必要。災害に対する準備と地域連携が課題。
- **40代**
  - 排水設備やインフラ整備、高齢者向け防災グッズの配布が必要である。また、避難所の設備改善や物流拠点の整備も必要。意識向上や地域情報の提供が課題。
- **50代**
  - 準備、情報提供、ボランティア活動を強化し、地域特性に応じた対策を整えるべき。高齢者や障害者への配慮も忘れず、コミュニティで助け合う意識を育てる。
- **60代**
  - 高齢者や障がい者への支援策を求める。災害への備えと訓練の必要性を強調しており、地域特性に応じた訓練やネットワークを広げることが重要。
- **70代以上**
  - 耐震性強化やインフラ整備を重視し、事前に避難先確保を進めるべき。自助・共助を促進し、防災訓練を定期的実施することを望む。

## 全体考察<クロス分析>

- **群馬県の関わり×カテゴリ**

- 群馬県との関わりに関わらず、全ユーザーの関心が高いのは「リスクコミュニケーション」であった。
- 「群馬県に居住・通勤・通学」しているユーザーからは、全カテゴリにコメントが寄せられた。防災に関して多岐に渡る関心があることが伺える。

- **年代×カテゴリ**

- 20代から70代以上まで、最も関心が高いのは総じて「リスクコミュニケーション」であった。
- 高齢になるにつれ、「インフラ・ライフライン整備老朽化対策」の回答が増加しており、河川の整備や空き家対策、幹線道路の整備など、普段利用している身近な環境への危機感を感じていることがわかる。
- 一方で若年層は「行政機能防災教育」や「行政への要望」の回答が多く、避難訓練やハザードマップなどの広報、避難所の改善など、行政の動きに対する関心が高いことがわかる。

- **属性的設問①「あなたの自然災害への準備状況を教えてください」×カテゴリ**

- 「準備は完了している」を選択したユーザーは行政機能防災教育への関心が高い
  - 自分で準備をしたことを通した防災関連情報への知見の高まりから、行政機能への不安感を持っていることや、防災教育の不足に気付きを得ていると想定される。
- 「ある程度準備している」「準備を検討中、または準備の予定がない」と答えたユーザーは、全カテゴリの中で「リスクコミュニケーション」との回答が最も多かった。
- 「準備を検討している・準備の予定はない」ユーザーは、準備状況の属性の中で、最も「行政への要望」を回答した割合が高かった。
  - 自身で備えをする自助を実施するよりも、行政に対し、公助を求める傾向があると考えられる。

*PoliPoli* Gov